

2022年度 学校評価報告書

2022年4月1日から
2023年3月31日まで

学校法人 코리아 国際学園

2020年度から続いたコロナ禍による様々な制限も少しずつ解除されるようになり、学校運営も日常を取り戻す兆しを見せた2022年度。

コリア国際学園の教育理念に基づいた学校運営の永続性確保、教育活動全般を中期的な拡大発展に向け反転させて行く方針を打ち出し、教育改革の継続推進、K-POPエンターテイメントコースの影響により生徒増加等で教育活動を充実させ、コリア国際学園教育の根幹であるKISコースの生徒募集強化、財政指標の改善のために全力を尽くした。

2022年度学校方針の実践については、「学校力の向上」を目標に、グローバル化が加速する国際社会のさまざまな分野で活躍・貢献するために、個々の自己実現を希求し、自ら学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた生徒の育成を目指した。その実現のために最重点事項としたK-POPコースの安定・充実については、KPOPコース生徒増加や様々な活動で実績を残すことができた。

しかし、いくつかの課題を残すことにもなった。

1. KIS 教育活動の点検と発展

コリア国際学園の根底である「越境する人」「多文化共生」「自由と責任」を学校教育のあらゆる場で実践するよう参画・実行し、さらなる発展のある教育現場を目指した。

「自由と責任」を原則とした学校文化を作りあげるルール作りをおこなってきたが、「自由」をはき違えていないか、自由という名の下に自分に都合良く解釈していないか、また「責任」の意味を本当に理解しているか、また教員も「自由」を「放任」にしているかを点検してきたが、未だ「自律できる人」の育成には至っていない。

しかし「多文化共生」「自由と責任」を原則とした学校文化のルールは、KIS各コースの特色を理解し、お互いがそれぞれを認め、尊重していく過程で理解していくものとする機会になったのではと考える。

しかし現在、残念ながら「越境人教育」が弱体化していると思われるところもある。

インターナショナルスクールというコリア国際学園の利点をフルに活用し、「越境人教育」を継続実践していくことが重要であると考えている。

2. 英語・コリア語 教育強化と充実

コリア国際学園教育の大きな柱である言語教育は、ネイティブスピーカー教員を中心に授業を実施している。

英語は週7時間の授業を実施しているが、まだ十分に生徒や保護者の期待に応じられていない状況ではないと言わざるを得ない。

英語・コリア語教育ともに、今後も新入生増加が続くと見込み、世界に通用できる高みの言語教育の実現を目指す。

新年度に向け、現状分析とより高度な指導方法を確立できるよう検討する必要がある。

3. IB 教育の点検

IBDP を実施後、IB 教育が定着しつつも環境整備など課題も未だあり、今後の IB 教育実施において、IB 教育理念が求める国際的な人材として育つことができる教育課程、また自主的な学びに取り組むことができる教育環境を提供することが必要と考える。

4. K-POP コースの充実

K-POP コース生増加のなか、今後もこのコースを盤石なものにし、内容を充実させていくために「環境の整備」、「指導教員体制の強化」等をはかった。

また 2022 年度は K-POP コースとしての実績を確実に残すことができた。「2022 K-POP COVER DANCE FESTIVAL in Japan」にて日本一を勝ち取り、韓国ソウルで開催された世界大会に出場した。そのほかにも様々なコンテストやイベントに参加し、KIS の K-POP コースの名を広めた。

また K-POP をとおして、近隣の学校や地域との交流にも大きな役割を果たした。

5. 進路指導

2022 年度は K-POP コース「1 期生」の進路に内外の注目が集まるなか、生徒本人たちの努力と受験に臨む姿勢、受験をサポートする教員の熱意も相まって、K-POP コースの進路指導において、大きな成果があったと言える。

また KIS コース生徒の受験においても、ほとんどの受験生たちが志望する日本国内・韓国の大学合格を果たし、コリア国際学園の強みの一つである進路実績を改めて示すことができた。

6. 中等部の基礎・基本学習の見直し

中等部生の一定の基礎学力と学習習慣を確立させようと指導をおこなってきた。

今年度は更に、様々な学びの方法と、きめ細やかな学習指導による基礎学力の伸長・向上を目指したが、学力の差による授業の進め方の問題、指導においては課題が残るままとなった。

7. 生徒募集

学校ホームページの随時更新、特に SNS での広報に力を入れた。

また授業参観、公開授業（OS）において、例年より手ごたえを感じるものがあったが、実際の志願者数は開催した OS を通して試算した志願者数を下回り、全生徒数としては前年度と同等水準にとどまった。新年度の OS 内容の見直しなど、検証する必要がある。

特にコリア国際学園の根幹である KIS コースの生徒獲得には、より注力すべきと考える。